



# 高輪だより

令和元年度7月号  
港区立高輪幼稚園  
園長 柿沼 敦子

笑顔いっぱいの高輪子ども祭り

高輪幼稚園長 柿沼 敦子

6月12日(水)の高輪子ども祭りは、お家の方、近隣の未就園児の親子の皆さんが大勢来てくださり、大変にぎわいました。お店の内容は、年長、年中とも普段の遊びの中から考えられており、その様子は前日配布した「高輪子どもまつり合同だより」のとおりです。

私が年長組の射的の準備を進めているところに行き、玉の作り方を聞くと「まず、紙を丸めて、それをテープで留めて、それから輪ゴムをビニールテープで留める」と説明してくれました。年長ともなると言葉も選んで使えるようになり、順序良く説明できるものだと感心しました。当日は、年長として年下の子に優しく遊び方を説明する成長した姿をたくさん見つけました。

年中組はフードコート担当でしたが、自分たちで、紙を切ったり、手で丸めたり、色付けしたりして作ったかわいい品物が並び、お店屋さんとしての動作(茹でる、揚げる、トッピングする、味付ける)の工夫がありました。より本物らしく作ったり、動いたりすることをとても楽しんでいました。

まつりの翌日には高輪保育園のかぶとむし組さんも来て、お店を楽しんでくれました。こうして幼児たちは、たくさんのお客さんがきたこと、喜んでもらったことで満足感や充実感をたくさん味わいました。それは自信となり次への意欲となります。子どもたちと一緒に楽しんでくださったお家の方々、準備からご活躍いただいたお祭り委員と役員の皆様ありがとうございました。

高輪子どもまつり 子どもも大人も楽しみました



## <スダジイとお別れ>

長い間、ずっとずっと高輪幼稚園の子どもたちの大きくなる姿を見守ってくれていたスダジイとお別れすることになりました。「ありがとう」の気持ちをたくさん、たくさん伝えました。



木陰でお弁当

